漁港は
魚の保育園
http：//www.gyokou.or.jp/

漁港漁場月報

令和元年11月15日　発行
毎月　1回15日発行
編集兼発行人　公益社団法人　全国漁港漁場協会
橋本　牧
東京都港区赤坂1－9－13三会堂ビル8階
電話　東京（5114）9981
定価　1部　70円
（会員の購読料は会費の中に含む）

第70回 全国漁港漁場大会

広島県福山市で開催

第70回全国漁港漁場大会（主催＝（公社）全国漁港漁場協会、後援＝広島県、広島県漁業協同組合連合会、広島県漁港協会、福山市、協賛＝全国漁港海岸防災協会）が、10月29日に広島県福山市のふくやま芸術文化ホールにおいて、伊東良孝農林水産副大臣、衛藤征士郎漁港漁場漁村整備促進議員連盟会長、保科正樹水産庁次長、田邉昌彦広島県副知事、長岡英典（一社）大日本水産会常務理事、吉塚靖浩水産庁漁港漁場整備部長をはじめ多くの来賓と全国から漁港漁場漁村関係者約1400人の参加を得て盛大に開催された。

全国から多数の関係者が参加した

全国から1400人が集まる

本大会は、漁港・漁場・漁村の総合的整備を図るために、全国の漁港漁場関係者が参集して開催されており、昭和24年の第1回大会以来、70回目を迎えた。昨年スタートした水産政策の改革と大いに関係する水産基盤の整備のためには、漁港漁場整備長期計画を早急にかつ着実に実施することが必要であり、漁港・漁場・漁村・海岸整備の促進に係る関係諸施策の積極的な推進を図る必要がある。このため、全国の漁港漁場関係者の総意をもって提言が採択され、その実現のため政府、国会等に対する要請活動を行うことが決議された。

大会は午後2時に広島県漁港協会の山本有勇二副会長（広島県漁業協同組合連合会代表理事会長）の開会宣言により開会し、はじめに主催者を代表し橋本牧（公社）全国漁港漁場協会会長が挨拶を行った。

来賓祝辞に移り、伊東良孝農林水産副大臣の祝辞に続き、衛藤征士郎漁港漁場漁村整備促進議員連盟会長、長岡英典（一社）大日本水産会常務理事がそれぞれ祝辞を述べた。

祝辞の後、田邉昌彦広島県副知事の歓迎の挨拶があった。

議事に入る前に司会者より、来賓のご紹介及び安倍晋三自民党総裁をはじめとする祝電の紹介があった。

議事に入り、議長の選出が行なわれ、議長には枝広直幹広島県漁港協会会長（福山市長）を選出した。

枝広議長は、議長就任の挨拶を行い、議案の審議に入った。付議議案、令和2年度漁港・漁場・漁村・海岸整備予算の確保に関する件」について、泥谷光信高知県漁港漁場協会会長（土佐清水市長）が提案理由を説明した。

続いて議案に関連した、

○福岡県糸島市の取組み「カキ小屋による浜のにぎわいづくり」（発表者：福岡県糸島漁協代表理事組合長仲西利弘氏）

○岩手県大船渡市の取組み「ICT化と情報公開」（発表者：岩手県大船渡魚市場（株）専務取締役佐藤光男氏）

○愛媛県愛南町の取組み「防災拠点漁港における防災対策：深浦漁港」（発表者：愛媛県農林水産部水産局漁港課課長津田哲氏）

○広島県福山市の取組み「備後フィッシュ～瀬戸内の地魚のブランド化～について」（発表者：備後の地魚応援団団長村上設雄氏）

の四例の取組事例の発表があった。その後採決に入り、本議案は満場一致で議決された。

議長の指名により、渡邉冬彦広島県漁港協会監事（横島漁協代表理事組合長）が、議決された内容を取りまとめた提言案を朗読し、満場の賛同の拍手により採択された。

採択された提言をもとに全国漁港漁場協会会長、各都道府県漁港漁場協会連合会会長の連名による提言書を作成して政府及び各都道府県の地元選出国会議員等の幅広い関係者に働きかけ、提言で示された施策の実現と必要予算の確保の実現に努めることを会場の賛同を得て決定し、議事を終了した。

最後に次期全国漁港漁場大会の開催地である北海道漁港漁場協会の高橋昌幸会長（神恵内村長）が、第71回全国漁港漁場大会を令和2年10月29日に北海道函館市で開催する旨挨拶し、大会は終了した。

このほか、会場では恒例となっている（公財）漁船海難遺児育英会による募金や展示ブースを利用した漁港漁場関係団体・企業による展示、広島県の特産品等の物産展等が開催され、大会参加者が多数参加した。

主催者の橋本牧全国漁港漁場協会会長

提　言

私たちは、先人から受け継いだ豊かな海を守り、水産業と漁村を健全に維持・発展させることにより、安全で良質な水産物を提供し、健康的で豊かな日本の食文化を支えてきました。

しかしながら、地球温暖化の影響などによる漁場環境の変化、漁獲の低迷や、本格的な人口減少社会の到来による漁業従事者の減少・高齢化、水産物国内消費の伸び悩み、地域活力の低下など、水産業・漁村には多くの課題が存在します。

このため、国におかれては昨年漁業法を改正し、水産政策の改革に着手されました。この改革が目指す、漁業者の所得向上と若者などにとって魅力ある漁業の実現のためには、基盤整備によりしっかりと下支えすることが求められます。

まずは、漁港の衛生管理や流通・加工の高度化や省力・省エネルギー化を推進して競争力強化を図り、輸出促進に取り組むことが必要です。更には、適正な資源管理に向け、ICTの活用や漁業取締強化のための基礎整備、積極的な漁場環境の保全を推進することにより水産資源の回復を図るとともに、漁港の内外を活用した養殖場の拡大や技術開発に取り組み、養殖業の推進も図らねばなりません。

また、近年、強大化が懸念される台風・豪雨等の災害や、発生の危険性が高い大規模地震・津波等に対し、漁港・漁場・漁村及び海岸の防災・減災対策の強化を急がねばなりません。

更には、地域の活性化を図るため、漁村の持つ豊かな自然、文化、水産物等の地域資源を活用するとともに、漁港施設の長寿命化や多目的な有効利用を図り、女性や高齢者も働きやすく、地域住民と来訪者双方にとって魅力ある漁港・漁村を創っていくことが重要です。

私たちは、これからもこれらの取り組みを続け、水産業を魅力ある産業として次世代に伝え、漁村を豊かで安心して暮らせる場とするため、努力して参ります。

このためには、漁港漁場整備長期計画に位置づけられた、漁港・漁場・漁村や海岸の整備が早急かつ着実に実施されることが必要であり、左記の事項の推進を強く提言いたします。

記

一、水産業の成長産業化に向けた漁港の生産・流通機能強化と養殖業の推進
一、水産環境の整備による水産資源の回復と豊かな生態系の再生
一、大規模自然災害に備えた漁港・漁村・海岸の強靭化対策の推進
一、地域資源や漁港ストックを活用した漁村のにぎわいの創出

令和元年十月二十九日

第七十回全国漁港漁場大会

主催者挨拶

全国漁港漁場協会会長　橋本　牧

会場の皆さんこんにちは。本日は全国から大勢の皆さまにご参加いただきました。誠にありがとうございます。

令和の新しい時代を迎えたこの年に、全国漁港漁場大会が70回目の節目を迎えました。会員の皆様と力を合わせ、1回1回積み上げてきたことに大きな意味があると思います。ご出席の皆様とともに喜びたいと存じます。

まず、お忙しい公務のなかご出席いただきました、伊東良孝農林水産副大臣はじめ政府関係の方々、衛藤征士郎漁港漁場漁村整備促進議員連盟会長をはじめ議員の皆様、また水産関係団体の皆さまなど、多くのご来賓のご臨席を賜り、盛大に大会を開催出来ますことを、主催者と致しまして、誠に光栄に存じております。

また、本大会の開催にあたっては、広島県、福山市、広島県漁業協同組合連合会及び広島県漁港協会の後援を頂きました。心より御礼申し上げます。

ここ広島県にも甚大な被害を及ぼした昨年の西日本豪雨。この復興が進むなか、今年も我が国は、各地で豪雨災害や強大な台風の被害が相次ぎました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害を受けられた多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。

地球温暖化の影響もあり、近年台風等の強大化が顕著になりました。一瞬にして多くの人々の命を奪い、社会・経済の活動に大打撃を与える、これまでとは風速も、降雨量も、暴風域の範囲も格段に大きな台風が来襲する危険性があるのです。

東日本大震災の後、地震・津波に対する検討が進み、比較的発生確率の高い津波L1と数百年に一度来襲する最大クラスの津波L2を求め、総合的な防災・減災対策が講じられる様になりました。南海トラフ巨大地震対策を迅速に進めることと併せて、台風等の気象災害についてもリスクが高まる中、この様な取り組みを進めるべきだと思います。

また、現在私たちが直面している大きな課題に、人口の減少と地域活力の低下があります。我が国が人口減少社会に突入したなか、未来を見据えて、若者にとっても働きがいがあり、消費者にも良質な水産物を提供し続けられる「力強い水産業」を構築してゆくことが必要です。このため、様々な議論を経て、政府は昨年、漁業法を改正し、水産政策の改革に着手されました。

漁港漁場整備についても、水産業を体質強化し、それらの改革を着実に実行し、地域の活力を守るため、必要な施策を積極的に進め、しっかりと、これを下支えしなければなりません。

私たち漁港漁場協会も、それらに貢献できるよう、体制を強化し、活動を深めていきたいと思います。

本年も、地域毎にブロック協議会などを開催し、様々な議論を積み上げて参りました。それぞれ緊急性の高い多くの課題が出されています。

本大会では、ここにお集まりの皆様に、これらの課題について議論をいただき、その内容を広く国民の皆様に訴えるとともに、我が国の水産業が成長産業として発展することと、活気のある豊かな漁村が実現することを目指して、一層の団結のもと活動を進めてゆくことをお願い申し上げ、私の開会の挨拶と致します。

ありがとうございました。本日はどうぞ宜しくお願い申し上げます。

祝辞

農林水産副大臣　伊東　良孝

本日ここに70回目を迎える「全国漁港漁場大会」が開催されるに当たり、政府を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

今年も全国各地で多くの台風・大雨災害が相次ぎました。また、ご当地でも昨年は西日本豪雨がありました。これらの暴風災害、豪雨災害等で沢山の方々が亡くなられ、また、多くの方々が被災されました。心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

農林水産省といたしましても、被害に遭われた農林漁業者の皆さまの切実な声を聞きながら、復旧、復興に全力を挙げて取り組んで参ります。

さて、漁港漁場大会は、漁港・漁場・漁村の総合的整備と漁港の利用促進を目的として開催をされ、昭和24年の第一回大会以来、当年で記念すべき70回を迎えることとなりました。この間、関係者の皆さまが、漁港・漁場・漁村の整備促進はもとより、水産業が抱える様々な課題に積極的に取り組んでこられたことに、深く敬意を表し感謝を申し上げる次第です。

我が国の水産業は、国民の食生活に欠かせない水産物の安定供給とともに、漁場環境の保全や地域経済の振興など、国民生活の向上にも大きく寄与をしております。

一方で、水産業を取り巻く環境につきましては、世界的な水産物需要が増大する中、本格的な人口減少社会が到来するなど、大きく変化をしてきております。

このような中、水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化を両立させ、漁業者の所得向上などを目指した「水産政策の改革」に沿って、浜の皆さまのご理解のもと、70年ぶりに「漁業法」が改正され、資源管理や漁業許可等の基本制度を見直したところです。

また、水産改革と大いに関係する水産基盤整備につきましては、「漁港漁場整備長期計画」に基づき、水産物の輸出の促進、大規模災害に備えた防災・減災対策、漁村のにぎわいの創出を図るとともに、特に来年度においては、漁港や漁場におけるICT技術の活用や漁業取締強化のための基盤整備を通じ、適正な資源管理を推進していくこととしております。

今後とも、水産基盤整備に必要な予算の確保と制度の充実が図られるよう努力して参る所存ですので、全国の関係者の皆さまにおかれましては、引き続きお力添えをいただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

結びにあたり、我が国水産業、漁港・漁村の益々の発展、並びに、本日ご出席の皆さまのご健勝をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。

祝辞

大日本水産会会長　白須　敏朗

代読：大日本水産会常務理事　長岡英典

大日本水産会の長岡でございます。第70回全国漁港漁場大会の開催、まことにおめでとうございます。

私共の白須会長が本日所用にて、参加が叶わず、小職より祝辞を代読させて頂きます。

＜祝辞＞

先ずは、先の台風19号により、漁港設備の損壊や大量の流木等による被害に遭われました方々に心よりお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

あらためまして、ここ福山における第70回全国漁港漁場大会の開催、誠におめでとうございます。

本日は、伊東良孝農林水産副大臣、そして漁港漁場漁村整備促進議員連盟の衛藤征士郎会長をはじめとする議員の先生方をご来賓としお迎えすると共に、全国より多数の関係の皆さんが集われる盛大なる開催、心よりお慶びを申し上げます。

また、先頃、新内閣が発足し、農林水産大臣として江藤拓衆議院議員が就任されました。

江藤大臣、伊東副大臣それぞれ漁港地域が地盤であり、農水省や党の農林水産関係の役職を歴任されておられます。そのご経験と手腕を発揮して頂き、業界が直面する諸問題の解決に拍車をかけて頂けるものと期待しております。

さて我々水産業界は、70年ぶりに改正された新しい「漁業法」にも則り、業界最大の使命である「国民に対する水産物の安定供給」を果たすべく、水産業の成長産業化を進め、国際競争力のある強い水産業を確立するために、供給面においては「人・船・資源の構造改革」、需要面においては、「水産物の輸出の更なる拡大とインバウンドも含めた魚食普及」等を推し進めることが肝要であります。

そこで、今回の漁港漁場大会で掲げられている「水産業の成長産業化に向けた漁港の生産・流通機能強化と養殖業の推進」、「水産環境の整備による水産資源の回復と豊かな生態系の再生」等の提言は、当に私共水産業界の共通の目標であり、一丸となって取り組んでいかなければならないものと、承知するところです。

お集まりの漁港・漁場の関係の皆さんにおかれましては、本大会の提言を旨とし、引き続き漁港・漁場・漁村の整備に邁進され、「国民に対する水産物の安定供給」、そして「水産業と漁村の維持・発展」のためご尽力を頂きたいと、心より祈念いたす次第であります。

結びにあたり、大日本水産会は、引き続き皆様と共に「水産日本の復活」の実現のため全力を尽くすことをお誓いするとともに、全国の漁港・漁場関係の皆様のご発展を心より祈念し、第70回大会開催に当たってのお祝いの言葉とさせて頂きます。

祝辞

漁港漁場漁村整備促進議員連盟会長　衛藤　征士郎

第70回全国漁港漁場大会の開催に当たり、漁港漁場漁村整備促進議員連盟の会長として一言お祝いを申し上げます。

ご列席の皆様には、我が国水産業の振興と漁村の発展にご尽力頂いており衷心より敬意を表します。

また、度重なる強大な台風や豪雨の来襲により、被害を受けられた全国の多くの方々に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、我々は、漁港、漁場、漁村の整備を促進して、豊かな漁村社会の構築に寄与することを目的として議員連盟を立ち上げ、その趣旨に賛同する衆・参国会議員156名で活動をしております。

現在の水産業は、我が国が本格的な人口減少社会を迎えたことによる漁業従事者の減少・高齢化や地球温暖化の影響等による、水産資源の大きな変動、或いは台風や低気圧の強大化による漁港・漁場・漁村の被害など、多くの課題を持っています。

この様な状況の下、我が国水産業を安定的な成長産業として復活させるためには、漁港の衛生管理対策の向上や流通の効率化により水産物の輸出を推進することや広域的な海洋環境の改善により水産資源の回復を図ることなどを急がねばなりません。併せて、国土強靱化の推進や漁港施設の長寿命化、或いは漁村のにぎわいの創出など必要な諸施策についても総合的かつ迅速に取り組んでまいりたいと考えます。

8月末に農林水産省から財務省に令和2年度予算の概算要求書が提出されました。水産基盤整備予算の要求は867億円であります。今般の予算要求には、地域にとって緊急性の高い諸施策が盛り込まれており、4年度目を迎えた漁港漁場整備長期計画を着実に実行し、水産政策の改革を推進していく上で重要な意味を持ちますので、予算獲得に向け、議員連盟といたしましても最大限の努力をして参る所存です。

結びに、本大会の成功と、我が国の漁港・漁場・漁村の発展、またご列席の皆様のご健勝を心から祈念し、私の祝辞といたします。

歓迎の挨拶

歓迎の言葉を述べる田邊昌彦広島県副知事

議長選出

議長に選出された枝広直幹広島県漁港漁場協会会長

提言朗読

提言文を朗読する渡邊冬彦広島県漁港協会監事

次回開催地挨拶

高橋昌幸北海道漁港漁場協会会長

ただいまご紹介を賜りました、北海道漁港漁場協会の会長を仰せつかっております、神恵内村長の高橋でございます。

第71回全国漁港漁場大会の開催地が北海道函館市に決定いたしておりますので、皆さまお疲れの中でございますけれども、一言ご挨拶を申し上げます。

始めに、今般、度重なる台風災害等でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さま方に心からお見舞いを申し上げ、一刻も早い復旧と復興を、ご来場の皆さまとともにお祈り申し上げる次第であります。

また、昨年発生いたしました、北海道胆振東部地震に際しましては、全国の皆さま方から、力強いご支援と励ましの言葉を賜りました。心から厚くお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

本日、第70回の全国漁港漁場大会が、このように盛大に開催され、明日の漁業の振興発展に向けて、大きな力を結集できた大会になったことを心からお祝いを申し上げます。とりわけ、広島県、福山市を始め本大会開催にお力を尽くされた関係各位のご尽力に深甚なる敬意を表する次第でございます。

また、先ほどご出席をいただきました伊東農林水産副大臣、漁港漁場漁村整備促進議員連盟の衛藤会長、そして水産庁の保科次長には、日頃から水産業発展のために、格別なるご指導とご支援を賜っておりますことを、この場をお借りいたしまして、お礼を申しあげます。ありがとうございます。

更には、平素から各都道府県の協会に対しまして、格別なるご指導等を賜っております橋本会長を始め、全国協会の皆さま方に対しましても、この場をお借りいたしまして、お礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、北海道では、これまでに3回の全国大会を、いずれも札幌市で開催して参りました。来年は、北海道南部の経済・文化・歴史・観光の中心地であります、そして古くから本州との交易の拠点でもあった函館市での開催となります。

函館市は、函館山から見る夜景が大変素晴らしく、また、20世紀初期に建てられた洋風の建物が点在するエキゾチックな街であり、海の玄関口の函館港にはクルーズ船岸壁やフェリーふ頭、空の玄関口は函館空港、また、陸の玄関口としては、隣の北斗市に平成28年に北海道新幹線が開業したことなどから、毎年、全国、そして海外から500万人以上もの観光客の方々が訪れております。

皆さまご承知のとおり、北海道は大変広大でありまして、短い時間で皆さま方をご案内できる場所は限られておりますので、来年の視察研修の先は、函館市から札幌市までの北海道南部から中央部の施設を対象として考えております。

その中で、来年4月に白老町にオープンを予定しております、先住民族のアイヌの方々の伝統・文化・歴史を集約する「国立アイヌ民族博物館」のウポポイ、そして、数年前のNHKの連続ドラマ「まっさん」で有名になりました、余市町の「ニッカウィスキー」などをご覧になっていただき、そして、各漁港施設を視察していただくことによりまして、さらに、北海道の魅力でもあります雄大な自然を満喫していただきたいと思っております。

来年の第71回大会は、丁度1年後の10月29日の開催となります。

この時期の北海道は、冬を間近に控えて、ご当地広島よりも10度ほど低い気温となっておりますので、本日ご参加される皆さま方におかれましては、暖かい服装で来ていただきまして、そして北海道は函館の地で、一足早い冬の訪れを感じていただければありがたいと思っております。

結びになりますが、本大会で採択されました決議事項が、皆さまのご努力によって実現かなうことによって、そして北の大地から全国の皆さまに、第71回大会で将来の我が国の水産業が夢と希望の持てるものとなるよう、力強く発信する場といたしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

来年、多くの皆さま方にご参加いただけますことを、心から重ねてお願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

提案理由説明

提案理由を説明する泥谷光信高知県漁港漁場協会会長

ただいま、ご紹介を頂きました、高知県漁港漁場協会会長を務めております、土佐清水市長の泥谷光信でございます。

初めに、本年8月の九州北部豪雨、9月、10月と東日本に甚大な被害を発生させた台風15号、19号など、本年の風水害によって犠牲になられました方々に、謹んで哀悼の意を表しますと供に、被災された多くの皆様方に心よりお見舞いを申し上げます。

また、本日、ご出席のご来賓の方々を始め、ご参集の皆様におかれましては、常日頃から水産業の振興と活力ある漁村づくりに、ご尽力頂いている事に、心より敬意と感謝の意を表する次第です。

さて、本大会での提案理由の説明に先立ち、高知県と土佐清水市の現状をご説明させていただきます。

高知県の海岸線は、延長約713kmで東西に長く、室戸岬、足摺岬により、東部、土佐湾、西部の3海域に区分されます。

東部海域は、ごく沿岸まで急峻な海底がせまり、海洋深層水が湧昇する事から多種多様な魚類が集まり、定置網漁業の好漁場となっています。

土佐湾域は、県中央部の仁淀川を境に、東側は、殆どが隆起海岸で、機船船曳網漁業や底曳網漁業が営まれています。西側は、浦ノ内湾や須崎湾などの内湾域とリアス式海岸が続き、定置網漁業や機船船曳網漁業、底曳網漁業が営まれています。中でも須崎地区では、内湾域を活かしたマダイやカンパチの養殖業が盛んです。

足摺岬より宿毛湾までの西部海域は、サバやマルソウダガツオを対象とする釣漁業、定置網漁業が営まれ、宿毛湾では、中型旋網漁業やクロマグロ、ブリ、カンパチ、マダイなどの養殖業が盛んに行われています。

沖合海域は、黒潮が東方へ流下しており、黒潮にそって回遊するカツオ、マグロ類、キンメダイなどを対象とする釣漁業が行われています。

この沖合海域には「土佐黒潮牧場」と呼ぶ、浮魚礁が15基設置してあり、漁業の効率化と生産性を高めています。

一方、加工業では、カツオ一本釣漁業が盛んであった昭和には、土佐市と土佐清水市で、かつお節製造が盛んで「土佐節」として全国へ出荷されていましたが、近年は、カツオの水揚げが少なくなり、節加工業も廃れ、若年労働者の流出の原因ともなっています。

このような状況を踏まえ、高知県では、産業振興に取り組み、「若者が住んで稼げる元気な漁村」を念頭に、生産から加工・流通に至るまで、漁業関係者が一体となって振興に取り組んでいるところです。

次に、土佐清水市の概要ですが、四国の南西端に位置し、1年を通じて温暖で、近年は亜熱帯に近い気候となっています。

漁業では、近海カツオ一本釣漁業は、隻数が大きく減少しましたが、沿岸でのマルソウダガツオ釣漁業とサバ釣漁業は、地域経済を支える基幹漁業となっており、特に宗田節加工業は、全国生産量の70%のシェアを誇る産業となっています。

漁港は、3種漁港である清水漁港を初め、県内市町村で最も多い17漁港あり、これらが漁業生産の基盤となっております。

このような「高知県及び土佐清水市」の状況などを踏まえまして、付議議案「令和2年度漁港・漁場・漁村・海岸整備予算の確保に関する件」について、提案理由をご説明いたします。

我が国の水産業・漁村は、安全で良質な水産物を安定的に供給する役割に加えて、海の環境・生態系の保全や地域文化の継承など様々な社会的役割を担っております。

他方、現在、水産業や漁村は、水産資源の減少、地域人口の減少により活力が低下するなど多くの課題を抱えています。

このため、国におかれては、昨年70年ぶりに漁業法を改正し、水産政策の改革を進めることとされています。

この改革が目指す水産業の成長産業化を進め、輸出の拡大を図っていくためには、沿岸環境の保全・再生、漁場整備などによる水産資源回復対策や漁港の生産・流通機能の高度化対策が急務であると考えます。

また、南海トラフをはじめとした大規模な地震・津波の発生が懸念されるとともに、近年、豪雨や強大な台風などによる、自然災害が頻発しております。

こうしたことから、被災地の復旧・復興の加速化、漁村地域の強靱化対策を早急に進めることとともに、老朽化した施設の長寿命化を急がねばなりません。

また、私たちは地域住民とともに、地域資源を活用した水産業・漁村の活性化対策などに意欲的に取り組んでおりますが、こうした取り組みを更に展開してゆくには、国全体の力強い支援が必要であります。

このため、所要の令和2年度予算を確保するとともに、漁港漁場整備長期計画を着実に推進し、

1．水産業の成長産業化に向けた漁港の生産・流通機能強化と養殖業の推進

2．水産環境の整備による水産資源の回復と豊かな生態系の再生

3．大規模自然災害に備えた漁港・漁村・海岸の強靱化対策の推進

4．地域資源や漁港ストックを活用した漁村のにぎわいの創出

を求めるものです。

逼迫した財政状況のなか、地方や水産業への社会資本投資につきましては、まことに厳しいものがありますが、水産業を魅力ある産業として次世代に継承し、豊かで安心して暮らせる漁村づくりを実現するための喫緊の課題としてここに提案するものであります。

皆様の満場のご賛同をお願いいたしまして、提案理由の説明を終わります。ありがとうございました。

歓迎レセプション

10月29日、午後5時30分から福山ニューキャッスルホテルにおいて、（公社）全国漁港漁場協会と広島県漁港協会の共催で歓迎レセプションが開催された。

最初に、琴と尺八による鞆の浦に縁のある宮城道雄が作曲した春の海の演奏の後、橋本牧（公社）全国漁港漁場協会会長が主催者挨拶を行い、枝広直幹広島県漁港協会会長（福山市長）が歓迎の挨拶を行った。

引き続き保科正樹水産庁次長より来賓挨拶があり、乾杯の音頭を田邉昌彦広島県副知事が行った。

乾杯の後、広島県で結成されたジャンルにとらわれない新しい音楽の創造を目的としたドラムと和太鼓による「太鼓ユニット我龍」の演奏が行われ、会場はその迫力に圧倒され、大いに盛り上がった。

また、会場内では広島県瀬戸内海産の美味しい地魚なども振舞われ、全国から参集した多くの参加者による懇談が続いた。

挨拶する枝広会長

挨拶する保科水産庁次長

琴と尺八による春の海の演奏

漁船海難遺児育英会が恒例の募金活動

多くの大会参加者が募金した

全国漁港漁場大会では、「漁船海難遺児育英会」の募金活動が恒例となっている。

今大会においても（公財）漁船海難遺児育英会が大会会場において募金活動を行った。多くの大会参加者が募金活動に賛同し、「水色の羽」を胸に付け大会に臨んでいた。

意欲的な取組みの現地報告（事例発表の要旨）

○福岡県糸島市

講演者：糸島漁業協同組合代表理事組合長　仲西利弘

演　題：「カキ小屋」による「浜のにぎわいづくり」

＜講演概要＞

生産者自らが焼きガキを提供する糸島地区の「カキ小屋」について、旅行会社等とタイアップしたＰＲ活動等の取組を紹介した。この取組は、観光客を中心に2018年度の来場者が53万人を超えるという実績を築き、カキを起点として地元水産物の消費拡大、糸島市の雇用創出につながり、地域活性化の核となっている。

○岩手県大船渡市

講演者：大船渡魚市場㈱専務取締役　佐藤光男

演　題：ＩＣＴ化と情報公開

＜講演概要＞

大船渡市魚市場の完成にあわせ、復旧復興の最中であったが大船渡市を事業主体とする「水産物流通情報高度化事業」（復興交付金事業）を申請した。ソフト会社や現場の第一線で働く若手社員の意見を最大限に取り入れ、月３回程度ながら１年半の検討を行う等、ＩＣＴ（情報通信技術）化の推進が図られ、その概要を紹介した。

○愛媛県愛南町

講演者：愛媛県農林水産部水産局漁港課課長　津田　哲

演　題：防災拠点漁港における防災対策:深浦漁港

＜講演概要＞

愛媛県南端に位置する愛南町の深浦漁港は、カツオ一本釣漁業やマダイ養殖業など、県内一の水揚げ量を誇る流通拠点であり、県地域防災計画では海上ルート確保に位置付けられた防災拠点でもある。このため、南海トラフ地震など大規模災害発生後の被災地域の応急復旧対応や地域水産業の早期再開に資する、施設の地震・津波対策を紹介した。

○広島県福山市

講演者：備後の地魚応援団団長　村上設雄

演　題：備後フィッシュ～瀬戸内の地魚のブランド化～について

＜講演概要＞

広島県福山市・三原市・尾道市・岡山県笠岡市の備後圏域の沿岸４市で「備後地魚応援団」を設立した。地元で水揚げされる多種多様な水産物の中から、地元漁師1,000人がお薦めする地魚25種について「備後フィッシュ」と名付けブランド化の取組を行い、道の駅や飲食店等と連携し、イベント等を通じて地魚の消費拡大や流通促進を図る取組について紹介した。

第70回全国漁港漁場大会に祝電・メッセージを下さった方々

（順不動、敬称略）

自由民主党総裁	安倍　晋三
衆議院農林水産委員長	吉野　正芳
参議院農林水産委員長	江島　潔
内閣府特命担当大臣　衆議院議員	北村　誠吾
社会民主党党首　参議院議員	又市　征治
衆議院議員	小島　敏文
衆議院議員	岩田　和親
衆議院議員	関　芳弘
衆議院議員	岸田　文雄
衆議院議員	小林　史明
衆議院議員	金田　勝年
衆議院議員	松本　剛明
衆議院議員	松本　純
衆議院議員	宮路　拓馬
衆議院議員	佐々木　隆博
衆議院議員	畦元　将吾
衆議院議員	石破　茂
衆議院議員	大野　敬太郎
衆議院議員	金子　恭之
衆議院議員	佐藤　公治
衆議院議員	浜田　靖一
衆議院議員	細田　健一
衆議院議員	牧島　かれん
衆議院議員	三原　朝彦
衆議院議員	宮澤　博行
衆議院議員	山口　俊一
参議院議員	末松　信介
参議院議員	中西　祐介
参議院議員	宮沢　洋一
参議院議員	岩井　茂樹
参議院議員	河井　あんり
参議院議員	高橋　はるみ
参議院議員	西田　昌司
参議院議員	野村　哲郎
参議院議員	舞立　昇治
参議院議員	山田　俊男

企業等展示参加団体

○　（一財）漁港漁場漁村総合研究所
　（一社）水産土木建設技術センター
　（一社）全日本漁港建設協会
　漁港プレキャスト工法研究会
　（株）安部日鋼工業
　環境維持保全工法研究会
　（一社）漁港漁場新技術研究会
　（日建工学（株）、（株）海中景観研究所、（株）不動テトラ、（株）エスイー
　JFEエンジニアリング（株）、東洋建設（株）、海洋建設（株）
　海洋土木（株）、日本リーフ（株）、日之出水道機器（株））

○　日東製網株式会社
　株式会社大同重機製作所
　日本ホイスト株式会社

第70回全国漁港漁場大会来賓一覧

（順不同、敬称略）

出席された国会議員

農林水産副大臣　衆議院議員	伊東　良孝
漁港漁場漁村整備促進議員連盟会長　衆議院議員	衛藤　征士郎

代理の方が出席された国会議員他（到着順）

衆議院議員	佐藤　公治
参議院議員	宮沢　洋一
衆議院議員	斉藤　鉄夫
日本共産党	大平　喜信

出席された来賓（行政機関・団体等）

水産庁次長	保科　正樹
水産庁漁港漁場整備部長	吉塚　靖浩
(一社)大日本水産会常務理事	長岡　英典
全国漁協女性部連絡協議会会長	國分　豊子
(公社)全国豊かな海づくり推進協会総務部長	小陽　隆弘
(公財)漁船海難遺児育英会事務局長	上野　新治

出席された来賓（広島県）

広島県副知事	田邉　昌彦
広島県議会議員	宇田　伸
広島県議会議員	稲葉　潔
広島県議会議員	石津　正啓
広島県議会議員	村上　栄二
広島県議会議員	尾熊　良一
広島県議会議員	三好　良治
広島県議会議員	的場　豊
広島県議会議員	松岡　宏道
広島県議会議員　水産振興議員連盟	城戸　常太
広島県議会議員　水産振興議員連盟	高山　博州
広島県議会議員　水産振興議員連盟	坪川　竜大
福山市議会議長	早川　佳行
福山市議会副議長	熊谷　寿人
福山市議会議員	徳山　威雄
福山市議会議員	小林　茂裕
福山市議会議員	小川　眞和
福山市議会議員　建設水道委員会委員長	大田　祐介
福山市議会議員　建設水道委員会副委員長	宮本　宏樹
福山市議会議員　文教経済委員会委員長	生田　政代
福山市議会議員　文教経済委員会副委員長	石口　智志

第70回全国漁港漁場大会で漁港視察を実施

広島県漁港協会は、第70回全国漁港漁場大会の翌日の10月30日に広島県内4カ所で漁港視察を実施した。視察には全国から大会に参加した協会のうち32協会、約850名が参加した。

また、江島潔参議院議員も漁港視察に参加された。

視察は、広島県の水産業の現状等を理解していただくために次の4カ所で開催された。

一、鞆の浦観光鯛網（福山市鞆町）

鯛網は、しばり網漁法として、船団を組み桜鯛の群れを追う380年続く勇壮な伝統漁法であり、福山市を代表する行事となっている。大正12年に第1回観光鯛網が開催され、毎年5月に行われているが、今回の大会開催に合わせ、鞆の浦漁業協同組合等の協力を得て実施された。鞆の浦は、潮待ちの港として知られ、江戸時代に大きく整備された。この時代の港湾施設である「常夜灯」、「雁木」、「波止場」などが残り江戸時代からの港町の風情が残っている（15協会388人が参加）。

鯛網漁を実演する船団

二、内海フィッシャリーナ・クレセントビーチ（福山市内海町）

内海フィッシャリーナ・クレセントビーチは、漁港内のプレジャーボート対策と地域活性化を図る事業として県と町で実施され、1997年の開設当初から、地元漁協が管理運営を行い、様々な交流イベントや民泊事業などにも活用されている。内海フィッシャリーナの収容隻数は、陸域56隻、海域80隻の計136隻あり、クレセントビーチは延長600mのビーチを備えている（9協会308人が参加）。

三、広島県立総合技術研究所水産海洋技術センター（呉市音戸町）

明治33年に創設された広島県水産試験場が、その後の整備や機構改革により現在のセンターとなった。地域の水産業に密着した技術開発、技術相談、依頼試験など、広島県の水産業を支援しておりカキや魚類の飼育施設などを視察した。（6協会139人が参加）。

四、株式会社オオノ（廿日市市上の浜）

広島県はカキの出荷量が日本一であり、株式会社オオノは広島県宮島カキの養殖から加工・販売まで一貫して取り組んでいる。直売場となる売店では採れたてのカキが味わえるレストランが工場に併設されており、カキの加工洗浄・選別・箱詰めなど水揚げから出荷までの一連の作業を視察した。（11協会301人が参加）。

2019 漁港漁場漁村海岸写真コンクール

入賞作品決定！

（公社）全国漁港漁場協会と全国漁港海岸防災協会の共催、（一財）漁港漁場漁村総合研究所と（一社）水産土木建設技術センターの協賛、水産庁後援による2019漁港漁場漁村海岸写真コンクールの入賞作品が、第70回全国漁港漁場大会の場で発表された。

同コンクールの作品審査は９月12日に行われ、入賞作品は、パンフレットにまとめられて大会参加者に配布された。

入賞作品は、特選１席（農林水産大臣賞）１点、特選２席（水産庁長官賞）１点、特選３席（全国漁港漁場協会長賞、全国漁港海岸防災協会長賞、漁港漁場漁村総合研究所理事長賞、水産土木建設技術センター理事長賞）各１点、入選５点、佳作10点で、入賞者は別表の通り。

なお、入賞作品は全国漁港漁場協会のホームページに掲載しています。

特選１席　農林水産大臣賞

特選２席　水産庁長官賞

２０１９漁港漁場漁村海岸写真コンクール　入賞者一覧

入賞		題名	氏名
特選１席	農林水産大臣賞	アオサの海	岡本　聖（京都府八幡市）
特選２席	水産庁長官賞	晴れの祝い船	小椋　利昭（千葉県八街市）
特選３席	（公社）全国漁港漁場協会会長賞	出漁	宇田川　洋二（兵庫県三田市）
特選３席	全国漁港海岸防災協会会長賞	後継者	石川　賢一（高知県高知市）
特選３席	（一財）漁港漁場漁村総合研究所理事長賞	二代目	稲葉　太一郎（奈良県生駒市）
特選３席	（一社）水産土木建設技術センター理事長賞	海上舟神事	泉　健一（奈良県生駒市）
入選		ママの休日	平井　正友（神奈川県横浜市）
入選		夕陽の中で	佐藤　瑞代（神奈川県横浜市）
入選		コンブ巻男くん	カマタニ　ヒサト（岩手県普代村）
入選		爺ちゃんの教え	山本　幸平（三重県志摩市）
入選		空を泳ぎたい	石村　國男（福岡県宗像市）
佳作		とれているかな？	藤原　泰男（京都府舞鶴市）
佳作		水掛け祭り	山本　安男（兵庫県神戸市）
佳作		稚貝の出荷	掛村　一憲（北海道札幌市）
佳作		海辺の家族	太田　誠二（新潟県新潟市）
佳作		砂紋の海辺	友金　マリ（東京都調布市）
佳作		海の祭り	仲川　幸延（愛媛県宇和島市）
佳作		海を守る参道	伊藤　健一郎（福岡県大牟田市）
佳作		海女帰漁	浜口　正雄（三重県志摩市）
佳作		新春の風物詩	佐藤　美栄子（神奈川県茅ケ崎市）
佳作		水掛神事	斎藤　孝子（岡山県岡山市）

特選３席　全国漁港漁場協会長賞

特選３席　漁港漁場漁村総合研究所理事長賞

特選３席　全国漁港海岸防災協会長賞

特選３席　水産土木建設技術センター理事長賞

漁港漁場漁村整備促進議員連盟が臨時総会

漁港漁場漁村の整備促進に関する決議を承認

漁港漁場漁村整備促進議員連盟（会長・衛藤征士郎衆議院議員）は、11月12日（火）午後5時から自由民主党本部603号室において、37名の国会議員が出席し臨時総会を開催した。総会には、伊東良孝農林水産副大臣、吉塚靖浩水産庁漁港漁場整備部長ら水産庁幹部及び関係団体を招いて協議を行った。

青木一彦事務局長（国土交通副大臣）の司会で議事が進められ、最初に、衛藤会長から、「日頃より、漁港・漁場・漁村の整備、振興に多大なご貢献をいただいている皆様方に感謝申し上げる。11月2日、3日に鳥取県、兵庫県下において現地視察と意見交換会を開催したところ8名の国会議員の参加を得た。財務省主計官も同行し、地域の様々な課題等について聴取することができ、大きな成果が得られた。現在、令和2年度予算の編成作業も大詰めを迎えようとしている。当議連は全国各地の水産業及び漁村を支えていく観点から予算の満額獲得に向け、最大限の努力をすべきと考えている。」との挨拶があった。

続いて、伊東良孝農林水産副大臣が挨拶し、水産庁漁港漁場整備部の吉塚靖浩部長から、令和2年度水産基盤整備関係予算の概算要求、台風等による漁港・漁場・漁村及び海岸の被害状況について、また、11月に実施した鳥取県と兵庫県の漁港等視察に同行した報告について説明があった。令和2年度水産基盤整備関係予算の概算要求については、対前年度比122％で要求していることについて説明があり、また、台風等による漁港・漁場・漁村及び海岸の被害状況については、近年、漁港関係施設の風水害による被害額が増加していることや、台風15号及び19号による被害状況についての説明があった。現地視察については、漁港等の視察の後、2カ所で合計100名の漁業関係者との意見交換会が開催され、様々な意見がでたが、令和2年度の予算の確保等によりこれら課題を解決していきたいとの説明があった。続いて、全国漁港漁場協会の橋本牧会長から、「日頃から、議連の先生方には、漁港・漁場・漁村の整備についてご指導とご支援をいただいていることに感謝申し上げます。今令和2年度予算は厳しい状況の中であり、議連の先生方の更なるお力添えをお願いしたい。」との発言があった。その後、司会の青木事務局長から、漁港・漁場・漁村の整備促進に関する議連の意思の結集としての決議案文が説明され、議連の総意として決議の推進を図るために財務省に対し要請活動を行うことが承認され、議事を終了した。

正面左から伊東農林水産副大臣、衛藤会長、青木国土交通副大臣

最後に、衛藤会長から、「本日承認された緊急特別決議については、この後、直ちに財務省へ要請活動を行いたいと考えており、先生方のご出席をお願いしたい。」と述べて締め括った。

本人出席の国会議員は、37名であり、次の通り（敬称略）。

【衆議院議員】

衛藤征士郎、伊東良孝、岩田和親、江渡聡徳、奥野信亮、加藤鮎子、金子恭之、亀岡偉民、木村次郎、古賀篤、関芳弘、谷公一、谷川とむ、津島淳、西銘恒三郎、平井卓也、平口洋、堀井学、牧島かれん、松本剛明、宮腰光寛、宮路拓馬、山口俊一、山口壮、鷲尾英一郎

【参議院議員】

青木一彦、磯崎仁彦、江島潔、加田裕之、北村経夫、高橋はるみ、滝沢求、舞立昇治、宮崎雅夫、山下雄平、山田修路、吉川ゆうみ

代理出席は30名。

令和２年度予算確保で財務省主計局長に申し入れ

太田主計局長（前列左から６人目）に申し入れを行った国会議員

漁港漁場漁村整備促進議連

漁港漁場漁村整備促進議員連盟（会長・衛藤征士郎衆議院議員）は、11月12日午後5時30分から漁港・漁場・漁村の整備促進に関する緊急特別決議の申し入れを財務省に行った。これは、同日開催された漁港漁場整備促進議員連盟の臨時総会での決議を受けたものであり、財務省の主計局長室において太田充主計局長に対し、令和2年度水産関係公共予算の満額確保を関係施策の実現を強く申し入れた。冒頭、衛藤会長から、「漁港・漁場・漁村整備の予算は、沿岸地域にとって欠くことのできない重要な予算であり、議連の総会を開催し議員の決議を行い本日伺った。緊急特別決議にある4項目の実現のため、予算の満額確保をお願いする。」との要請が行われた。緊急特別決議の主な内容は、漁港漁場整備長期計画に位置づけられている漁港漁場及び漁村の整備を着実に推進するため、地域からの希望が極めて強い次の内容であり、この施策を実施するために令和2年度水産関係公共予算の要求額は、満額確保すべきとしている。

○水産業の成長産業化に向けた漁港の生産・流通機能強化と養殖業の推進

○水産環境の整備による水産資源の回復と豊かな生態系の再生

○大規模自然災害に備えた漁港・漁村・海岸の強靱化対策の推進

○地域資源や漁港ストックを活用した漁村のにぎわいの創出

申し入れに参加した国会議員は次のとおり。（敬称略。

衆議院議員（8名）

衛藤征士郎、岩田和親、加藤鮎子、金子恭之、谷公一、西銘恒三郎、山本有二、宮腰光寛

参議院議員（8名）

青木一彦、加田裕之、金子原二郎、北村経夫、舞立昇治、宮崎雅夫、山田修路、吉川ゆうみの合計16名の国会議員。

第18回全国漁港漁場整備技術研究発表会開催

「第18回全国漁港漁場整備技術研究発表会（主催：水産庁、鳥取県、（公社）全国漁港漁場協会）が、鳥取県米子市「米子コンベンションセンタービッグシップ国際会議室」で10月17日、18日の2日間に亘り開催された。

この発表会は、昭和31年から平成13年まで「全国漁港建設技術研究発表会」として46回開催されたが、平成14年から漁場整備に関する技術を加え、漁港と漁場を一体的に取り扱う発表会として名称も改められ、本年で18回目、昭和31年からは通算64回目の発表会となる。

この発表会は、全国の漁港漁場整備にかかる新しい研究成果や先進事例を紹介し、漁港漁場整備の技術の向上、普及を目的としており、今年度は全国の漁港漁場関係技術者約二百五十名が参加した。

1日目の発表会は、午前9時30分から浅川典敬水産庁漁港漁場整備部整備課長、橋本牧（公社）全国漁港漁場協会長、岸本英夫鳥取県農林水産部水産振興局長より主催者挨拶が行われ、続いて、「多様で豊かな水産資源を育む漁場環境の保全のあり方について～山陰鳥取の海を実例に～」と題して、公立大学法人公立鳥取環境大学人間形成教育センター　太田太郎准教授による基調講演が行われた。

続いて、テーマごとに数題の一般発表が行われた。

水産業の競争力強化と輸出促進のテーマでは①境漁港における高度衛生管理型市場整備の現状と輸出促進の取組、②鹿児島湾が育むブリ養殖の生産体制強化を図る漁港施設整備、③漁港・市場における市場取引業務の電子化・ネットワーク化についての3題が発表された。

豊かな生態系の創造と海域の生産力向上のテーマでは④久遠漁港における「磯焼け対策緊急整備事業計画」の取組について、⑤資源解析分野のCPUE標準化の手法応用による魚礁効果の定量評価、⑥有性生殖法によるサンゴ礁の面的保全・回復に向けた技術開発と今後の展望についての3題が発表された。

大規模自然災害に備えた対応力強化のテーマでは⑦岩手県水門・陸閘自動閉鎖システムの整備について、⑧宮崎県における安全な漁村の形成に向けた取り組みについて～漁港地域BCPの策定を通じて～、⑨海象条件の変化に順応した設計沖波の点検・見直しについての3題が発表された。

漁港ストックの最大限の活用と漁村の賑わいのテーマでは⑩漁港機能の分担・有効活用について（浜田漁港・須賀漁港）、⑪漁村における滞在型旅行（渚泊）の取組状況についての2題が発表された。

漁港漁場整備における新技術の活用のテーマでは⑫新技術を活用した働き方改革の実現～ICTプレキャスト工法の活用～、⑬漁港漁場整備事業への新技術の導入促進と活用の2題が発表された。

技術研究発表会の模様

以上、基調講演を含め14題の発表が行われ、参加者からは各発表後に活発な質問が出されていた。

2日目は現地視察が行われ、参加者は前日の発表でも紹介された境漁港と鳥取県営境港水産物地方卸売市場の視察を行い、米子鬼太郎空港とJR鳥取駅にて解散となった。

境漁港では、沿岸漁業、まき網、沖合底びき網、かにかごの各漁業種類に対応した荷さばき所を視察し、境港水産物地方卸売市場では高度衛生管理型の荷さばき施設を視察した。

来年度の研究発表会は、岩手県での開催を予定しているので、今年同様に数多くに方々にご参加いただきたい。

「発表者」（敬称略）

基調講演：公立大学法人公立鳥取環境大学人間形成教育センター准教授　太田太郎

一般発表

①鳥取県農林水産部水産振興局水産課　平野誠師

②鹿児島県商工労働水産部漁港漁場課　原田雄二

③一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所　林　浩志

④国土交通省北海道開発局函館開発建設部江差港湾事務所　佐藤　亘・高橋秀則

⑤国立研究開発法人水産研究・教育機構水産工学研究所　井上誠章

⑥一般社団法人水産土木建設技術センター　完山暢

⑦岩手県農林水産部漁港漁村課　豊坂光弘

⑧宮崎県農政水産部漁村振興課　小浜義史

⑨水産庁漁港漁場整備部整備課　山﨑将志

⑩宮城県利村町長　熊谷大（代理：菅野　勇）

⑪水産庁漁港漁場整備部防災漁村課　富田峻平

⑫一般社団法人全日本漁港建設協会　長野　章・牛田久喜

⑬一般社団法人漁港漁場新技術研究会　真野泰人

第20回全日本漁港建設協会セミナーを開催

（一社）全日本漁港建設協会は、10月24日（木）午後1時半から東京都内の石垣記念ホールにおいて、約120名の参加者を得て第20回全日本漁港建設協会セミナーを開催した。

最初に、長野章会長から挨拶があり、セミナーでは3題の講演が行われた。最初の講演では、「水産業の現状と改革について」と題して、前水産庁長官の長谷成人氏が、水産政策改革の背景と内容について講演した。次の講演では、「水産基盤整備の現状と今後について」と題して、岡貞行副会長代理（前漁港漁場整備部長）が、官公庁や研究機関さらには外国の水産振興支援等、多様な漁港漁場整備への関わりについて講演した。

講演する長谷前水産庁長官

国では、第四次水産基本計画に基づいた、第四次漁港漁場整備長期計画（以下、「長期計画」）が平成29年3月に閣議決定され、水産政策改革が平成30年6月にとりまとめられている。この長期計画と水産政策改革の策定に、水産庁長官、漁港漁場整備部長として尽力された二人の講師から、策定当時の苦労などの興味深い話も織り込んだ講演があり、参加者も熱心に聴講していた。

以上の講演を踏まえて、最後に「漁港建設業に与えられた課題ｉｎ水産政策改革」と題して、長野章会長が、働き方改革を推進しながら地域における水産業に貢献する漁港建設業について講演した。

鳥取県・兵庫県の漁港等を視察

漁港漁場漁村整備促進議員連盟

平井鳥取県知事から歓迎の挨拶を受ける

漁港漁場漁村整備促進議員連盟（会長：衛藤征士郎衆議院議員）は、水産業や漁港・漁場・漁村の現状と課題を把握し今後の政策に活かすため、11月2日(土)、3日(日)に、鳥取県及び兵庫県の漁港等の視察を行うとともに日本海側と瀬戸内海側の漁業関係者とそれぞれ意見交換会を実施した。

この視察には、衛藤征士郎会長、奥野信亮衆議院議員、谷公一衆議院議員、西銘恒三郎衆議院議員、加田裕之参議院議員、進藤金日子参議院議員、末松信介参議院議員、宮崎雅夫参議院議員の8名の国会議員が参加した。また、自民党政務調査会の濱浩二氏、財務省から中澤正彦主計官、水産庁から吉塚靖浩漁港漁場整備部長他幹部、在京漁港漁場関係団体の関係者らが同行した。

初日の朝、鳥取空港に到着した国会議員と現地で合流した鳥取県及び兵庫県関係者を含めた一行は、車中で両県の担当者から水産業や漁港・漁場整備の概要等について、水産庁の吉塚漁港漁場整備部長から水産基盤整備事業について、また、漁港の視察前にはそれぞれの漁港の現状と問題点等を関係県の担当者から事前に説明を受けて視察を行った。

兵庫県の漁業関係者との意見交換会

最初の視察地である鳥取県網代漁港では、平井伸治鳥取知事から歓迎の挨拶を受け、また、地元を代表して西垣英彦岩美町長の挨拶を受けたあと、網代漁港と隣接する陸上養殖施設を視察した。

その後、兵庫県浜坂漁港に移動し、西村銀三新温泉町長の歓迎を受けたあと、「もうかる漁業創設支援事業」により建造した沖合底引網漁船や加工施設等を視察した。

その後、香美町役場の会議室で兵庫県（日本海側）の漁業者等約50名と意見交換会を開催し、女性部や若手漁業者を含めた関係漁業者から様々な意見発表があり活発な意見交換が行われた。

香住漁港では、耐震化に対応した岸壁の整備状況や製氷・貯水施設などを視察した。

翌日は、姫路市の妻鹿（めが）漁港に移動し、漁業体験見学船や用地の有効活用等による「姫路とれとれ市場」の取組等を視察するとともに、姫路市内の会議室で兵庫県（瀬戸内海側）の漁業関係者約50名が参加し、意見交換会が開催された。漁業者からは瀬戸内海の貧栄養化に関する意見が多数出され、豊かな海への再生の重要性が訴えられ、参加議員からも他県との連携だけでなく、関係省庁の連携の必要性等の活発な意見交換が行われた。

また、初日の視察後に、豊岡市内で視察参加者と地元関係者の方々による「懇談会」が開催された。衛藤会長の挨拶の後、金澤和夫兵庫県副知事から歓迎の挨拶があり、地元選出の谷公一衆議院議員による乾杯の後、参加国会議員からも挨拶が行われ、浜上勇人兵庫県漁港漁場協会会長（香美町長）による中締めまでの間、和やかな懇談が行われた。

なお、参加者は視察終了後、姫路駅から帰路についた。

在京漁港漁場関係団体からの参加者は次のとおり。

（公社）全国漁港漁場協会橋本牧会長
全国漁業協同組合連合会大森敏弘代表理事専務
大日本水産会内海和彦専務理事
（一財）漁港漁場漁村総合研究所高吉晋吾理事長
（一社）水産土木建設技術センター宇賀神義盲理事長
（一社）全日本漁港建設協会岡貞行副会長代理

財務省、農水省、国交省等に要請

全国漁港漁場大会決議の要請行動

伊東副大臣（中央）に提言書を手渡した

第70回全国漁港漁場大会において「令和2年度漁港・漁場・漁村・海岸の地元選出国会議員等に整備予算の確保に関する提言書を作成し、政府及び各都道府県連名による提言書を作成した。

このため、11月6日(水)午後1時30分から、東京霞ヶ関の商工会館において漁港漁場関係者が結集し、大会決議の要請行動について打ち合わせ会議を開催し、直ちに行動に移った。

なお、今年度の要請活動では、提言書に加えて具体的な要望内容に関する資料を添付して要請活動を行うこととなった。

要請行動は、今年度の幹事協会を中心に各省庁へ要請を行う「合同要請」働きかけ、提言事項の実現を図ることが決議された。

漁港漁場漁村総合研究所、全国漁港漁場協会、全国漁業協同組合連合会会長の採択された決議は、本大会の提言として、全国漁港漁場協会会長、各都道府県漁港漁場協会会長、全国漁業協同組合連合会会長の幹事協会を中心に各省庁へ要請を行う「合同要請」と都道府県漁港漁場協会が地元選出国会議員に対し要請する「個別要請」に分かれて行なわれた。

財務省への合同要請は、(一社)沖縄県漁港漁場協会会長(糸満市長)、福島県漁港漁場協会の立谷寛治副会長(相馬双葉漁協組合長)宮崎県漁港漁場協会の安田広志事務局長ら9名が、財務省に提言書を手渡し要請を行った。

農林水産省には、(公社)北海道漁港漁場協会の高橋昌幸会長(神恵内村長)、徳島県漁港漁場協会の影治信良会長(美波町長)、(一社)沖縄県漁港漁場協会の上原亀一副会長(沖縄県漁連会長)、福井県漁港漁場協会の平野仁彦副会長(福井県漁連会長)及び(公社)全国漁港漁場協会の橋本牧会長ら7名が、伊東良孝農林水産副大臣と水産庁漁港漁場整備部の吉塚靖浩部長他水産庁の幹部にそれぞれ面談し、提言の実現を訴えた。

国土交通省には、愛知県漁港漁場協会の石黒和彦副会長(南知多町長)、宮崎県漁港漁場協会の日高昭彦会長(川南町長)、山形県漁港漁場協会の阿部信彦専務理事(山形県庄内総合支庁水産振興課長)ら12名が、大臣官房の田邊靖夫審議官(国土政策局担当)他に提言書を手渡し要請した。

内閣府の沖縄振興局には、(一社)沖縄県漁港漁場協会の上原昭会長ら6名が、原宏彰沖縄振興局長他に提言書を手渡し要請した。

国土交通省北海道局には、北海道漁港漁場協会の高橋昌幸会長(神恵内村長)ら3名が、倉内公嘉北海道局官房審議官他に面談し、提言の実現を訴えた。

また、個別要請では、11月6日を中心に11月中下旬にかけて都道府県漁港漁場協会が東京・永田町の衆参議員会館の事務所等を訪問し、389名の地元選出衆参国会議員に対し、要請を行った。

全国漁港漁場協会

第3回理事会を開催

（公社）全国漁港漁場協会は、10月29日午後1時から令和元年度第3回理事会を第70回全国漁港漁場大会が開催された福山芸術文化ホールの会議室において開催した。橋本牧会長の挨拶の後、事務局から理事会は定足数を満たしており成立していることが報告された。

定款の規定に基づき議長には、橋本会長が就任し議事に入った。先ず、第70回全国漁港漁場大会付議議案承認の件については、事務局から今年度各地区で開催された漁港漁場大会や地区協議会で提案された議案を課題毎に整理し、また、水産庁の令和2年度予算概算要求の内容等を踏まえて大会付議議案を作成したことが説明され、原案通り承認された。

また、賛助会員入会の件と他団体への入会の件は関連があるため一括して審議され、一般社団法人全日本漁港建設協会（長野章会長）が10月29日付けで賛助会員に入会すること及び、（公社）全国漁港漁場協会は（一社）全日本漁港建設協会の賛助会員に入会するための手続きに入ることが承認された。更に、顧問の推薦の件が審議され、前水産庁漁港漁場整備部長の岡貞行氏（一社）全日本漁港建設協会副会長代理）を定款の規定に基づき、顧問に推薦することが承認された。その後、報告事項として、令和元年度（上半期）職務執行状況について事務局から報告が行われた。

通常総会を開催

熊本県漁港漁場協会

熊本県漁港漁場協会（会長・中村五木天草市長）は、10月16日午後4時から、熊本市のホテル熊本テルサにおいて、令和元年度通常総会を開催した。

冒頭、中村会長は、台風19号により被災した方々へのお見舞いを述べた後、「水産業は依然として厳しい状況にあり、早急な対策が求められている。加えて大規模な自然災害が多発しており、本県においてもこれらへの対応は喫緊の課題となっている。このような状況に対して、これからも漁港・漁場・漁村を健全に維持していくためには、長期的な視点に立ち、地域の特性を生かして、漁港・漁場・漁村づくりを計画的に進めることが必要である。本年7月に開催された九州地区漁港漁場大会では漁港漁場整備長期計画の着実な推進と財源の確保等三つの事項が決議され、これらは全国漁港漁場大会の議題として提出される予定となっている。当協会に置いては引き続き会員の皆様と一丸となって国に対する要望活動をはじめ各種事業を積極的に展開して参る所存である。」旨挨拶された。

その後、水産庁漁港漁場整備部長（代理・片石圭介計画課計画官）、熊本県農林水産部長（代理・山田雅章水産局長）、(公社) 全国漁港漁場協会会長(代理・影山智将顧問)が祝辞を述べた。

会則により中村会長を議長に選出して議事に入り、平成30年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分（案）について、令和元年度事業計画及び収支予算（案）についての二議案を原案通り承認した。

総会終了後、水産庁の片石計画官から「水産基盤整備事業の動向について」の講演が行われた。

漁港往来

自10月1日 至10月31日

10月3日(木)
北海道漁港漁場協会専務理事高須賀茂之氏

10月8日(火)
安芸漁業協同組合代表理事組合長岡林實生氏

10月10日(木)
全国漁港漁場協会
佐治総務部長は宮城県、岩手県へ出張

10月16日(水)
全国漁港漁場協会
橋本会長、福田業務部長、金刺主幹は鳥取県へ、影山顧問は熊本県へ出張

10月21日(月)
全国漁港漁場協会
佐治総務部長は青森県へ出張

10月23日(水)
全国漁港漁場協会
福田業務部長、金刺主幹は岡山県へ出張

10月31日(木)
全国漁港漁場協会
広島県へ出張

10月28日(月)
全国漁港漁場協会
橋本会長、影山顧問、松岡参与、佐治総務部長、福田業務部長、坪田技術主幹、金刺主幹、金澤は主幹は佐賀県へ出張